

森の生きものガイド

びわこ地球市民の森

守山市水保町2727

四季折々の 森の植物や鳥・虫などの動物を紹介します。

ホオジロ (スズメ目ホオジロ科)

出合いのゾーンで撮影

日本国中で見られる身近な野鳥で、低い山や農耕地、草原、河原など明るく開けた場所に生息する。

成鳥は全長17cmほどでスズメとほぼ同じですが、尾羽が長い分だけ大きく見える。

頬が白いことが名前の由来で、繁殖期(4~7月)には「源平つつじ白つつじ」、「札幌ラーメン味噌ラーメン」のように聞こえる鳴き声が聞きなしとして知られている。

地鳴き(繁殖期以外)は草木の上に止まって「チッチー」と鳴く。

繁殖期は昆虫類、秋から冬は植物の種子を食べる。

低木の枝や地上に枯れ草を組んで椀状の巣を作り、一度に3~5個前後の卵を産む。



キジ (キジ目キジ科)

園内各所で姿・鳴き声、確認

日本では、本州・四国・九州などで主に平地の林や農耕地、河川敷の明るい草地に生息し、国鳥として有名である。

オスは、緑色の体に目の周りの赤色と茶褐色の長い尾羽が特徴で美しい。

繁殖期には、縄張り宣言でケーンケーンという鳴き声をよく耳にする。

飛ぶのは苦手だが走るの速く、主に地上で草の種子や芽、葉など植物性のものを多く食する。

地面を浅く掘り枯れ草を敷いて巣を作り、4~7月頃6~12ヶ程度の卵を産む。



コブシ (モクレン科モクレン属)

園内各所で見られます。

早春(3~5月)に他の木々に先駆けて白い花を梢一杯に咲かせる。

果実は集合果で、にぎりこぶし状のデコボコがあることが「コブシ」の名前の由来である。

枝は太いが折れやすく、折れた枝からは芳しい香りがする。

山地でよく見られるが、庭木や街路樹でも多く植えられている。



出合いのゾーンのコブシ

クサソテツ (コゴミ イワテンタ科)

多年生のシダで、早春から比較的日当たりの良い山野に群生する。

葉は根元から群がって出て長さ1 mにもなり、先端から広がる葉の様子がソテツを思わせることが名前の由来である。

若芽は、先が円状に巻き込んでいる姿から、コゴミ(屈)と言われ、山菜の一つとして美味である。



ふるさとゾーンのクサソテツの群生地



若芽のコゴミ

スギナ (トクサ目トクサ科)

日本に生育するトクサ類では最も小柄で、浅い地下に地下茎を伸ばして繁茂する。

その栄養茎を「スギナ」、胞子茎を「ツクシ」と呼び、「スギナ」の子が「ツクシ」ではなく、地下でつながっている家族のようなものである。

生育には湿気の多い土壌が適しているが、畑地でも生え、スギの樹形にも似て見えることから「スギナ」の名がついている。



スギナ



ツクシ



サザンカとヤブツバキ (ツバキ科ツバキ属)

サザンカ

樹皮は灰褐色で表面は平滑である。

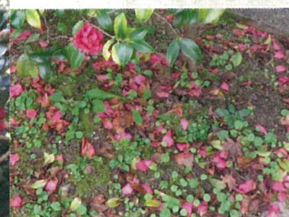
葉は長さ2~5 cm程度の鋸歯のある楕円形で互生である。

花は5枚で淡い桃色が多く、秋の終わりから冬にかけて寒い時期に咲く。

花はヤブツバキと異なり完全に開く落花は、花びらが個々にばらばらと散る。



つどいのゾーンのサザンカ



落花状況

ヤブツバキ

樹皮は滑らかで灰白色であり枝分かれが多い。

葉は先端が突き出ており長楕円形から広楕円形で互生である。

葉質は厚くて表面に艶がある。

花は冬から春にかけて咲き、カップ状で完全に開かないものが多い。

落花は花ごと落ちる。



里の森ゾーンのヤブツバキ



落花状況